

眉山と鎧塚

- 眉山は、頼山陽が西栗野村に滞在した際に「眉を引いたように優美な山」と命名したもの。まさに秀麗。
- 鎧塚古墳は、眉山山頂 231m(標高差約 207m)にある全長 82m の前方後円墳。琴塚古墳より古い 4 世紀後半に築造。

【発行:令和 8 年 2 月 15 日 / 企画編集:岩野田北まちづくりサロン内(仮称)眉山と鎧塚古墳を学ぶ会】

刀や鎧などの武器、あるいは農具などを造る技術や原材料を支配した者が、大きな勢力を有していました。美濃国の 3 人の各国造は、鉄器生産や鉄鉱山を支配する有力な豪族で、ヤマト王権にとっても美濃国は重要な地域と考えられます。



▲岩野田地域は、鉄(器)の生産と関係が深いことが岐阜市史などからも推測できます。また、地域の小字名にも注目です。写真は、渡来人の関りを想起させる字名のある朝鮮山(野) (現在は造成されて栗野台団地)から、眉山を展望【昭和 63 年 3 月 20 日撮影】
 ○は、鍛冶場が名の由来と思われる字名が「鐘鑄(かねと)」付近。

鉄を制する者たち

我が国に鉄器が伝わったのは、紀元前 4~3 世紀頃。“鎧塚古墳”の名の由来となった鉄製の鎧が伝来するのは、4 世紀半ばと云い、特別な権力者だけが持つことのできた貴重品でした。武装とともに、1 死者の身を守る祭祀用にも用いられたと言います。紀元前 1 世紀頃から、輸入した鉄素材の加工が始まり、古墳時代中期以降、渡来人によって鍛冶技術が向上。本格的な製鉄(砂鉄や鉄鉱石から鉄を生産)が始まったのは、6 世紀中頃とされます。美濃国でも、奈良時代の鍛冶跡が、牟義都ゆかりの弥勒寺官衙(かんがい)遺跡群(関市)で発見されました。



YOROI ちゃん

●美濃国の三人の国造と鉄器との関係一覧

国造名	鉄器との関係	主たる支配領域
牟義都国造	関市の弥勒寺に鍛冶や鉄生産が行われていたことが確実視されている。岩野田地域などの三井田里戸籍(702年)に、製鉄に関わった五百木部の名が見え、岐阜市史は、当地が壬申の乱での製鉄や武器の供給を担ったと推測。また、元正天皇行幸の717年に、方県郡にも牟義都一族が住んでいたとされる。	山県郡・武儀郡・加茂郡・郡上郡・方県郡? など
三野前国造	赤坂の金生山(きんしょうざん)は、鉄鉱石の産地として、重視される。また、不破郡の南宮大社は、鉱山や金属を司る金山彦命(カナヤマヒコノミコト)を祀る神社で、全国の鉱山・金属業の総本山である。	本巢郡・方県郡・不破郡・席田郡・養老郡など
三野後国造	同系の物部氏は、渡来人から製鉄技術を習得し、弥生時代終焉から古墳時代にかけて、国内の鉄器生産を担い、鉄の時代の幕開けを担い、大和王権の確立に不可欠な役割を果たしたと言われる。	各務郡・方県郡?・厚見郡?・可児郡など

鎧塚古墳は“城の壇”と呼ばれていた…?!

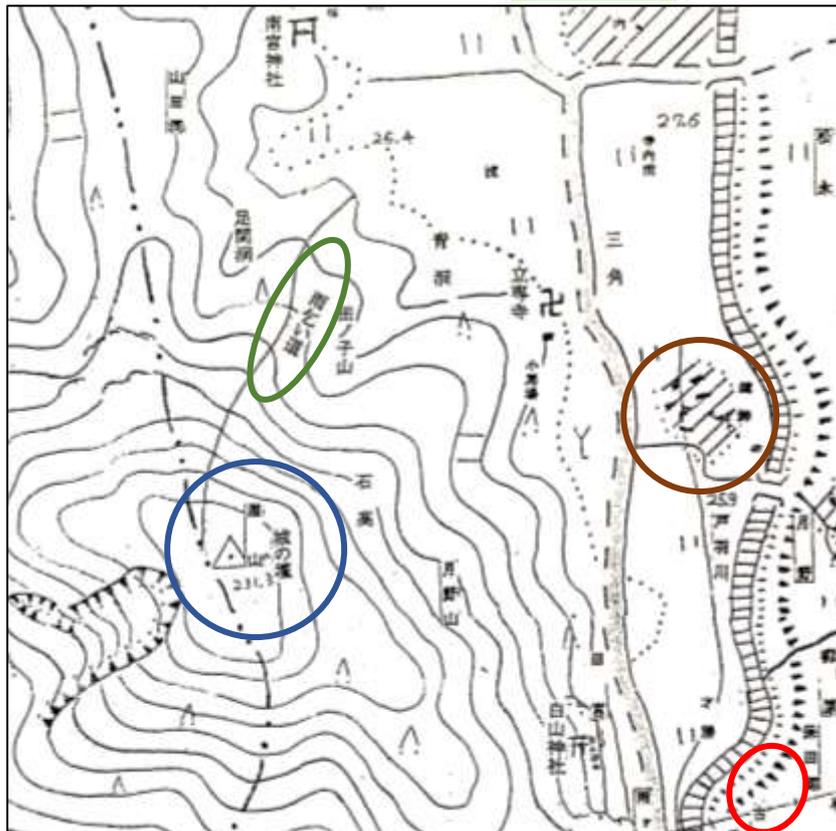


MAYU りん

昭和初期の地図を見ると、鎧塚古墳は、“城の壇”と記されています。古者に聞いても、「聞いたことがない」とのこと、昭和中期には一般的な呼び名ではなかったようです。

全国では、三ツ城古墳(東広島市)は、古墳の形が三つの山城のように見えたことから「三ツ城」と呼ばれるほか、今城塚古墳(いましろづかこふん・高槻市)は、戦国時代に砦とされたことから「今城」と呼ばれます。

岩野田地域で戦国時代に砦が築かれたのは鶴山で、2度の戦が起きています。単純に考えれば、鎧塚古墳は、山城のようで、2段組の形状からの呼び名でしょうか?一方、防御や見晴らしの面で、鶴山より眉山の方が使い勝手が良い気がします。物見櫓などとして活用されたのかも知れません。



▲「城の壇」、「雨乞い道」の記述が見える「昭和初期の岩野田の地図」。この道伝いに登山した経験があるが、今は登れない。
○の赤字名は「古戦場」。

雨乞い踊り

「昔は6月の中下旬に田植えしたが、一向に雨に恵まれない昭和17年6月、雨乞いを行った。私は小学4年生。ゾウリにミノガサで、眉山や如来が岳に登り、山頂で松の枯れ枝などを集め、鉦を叩いて一晩中火を焚いた(結局、雨は降りません)。その年は、7月に田植えをした。この年はほかにも災害に見舞われた。12月1日の夜中、突風で栗野西(西山)の家が倒壊し、奥さんと娘が亡くなった。赤ちゃんは、奥さんの下にかばわれ助かった」…栗野西の方から伺ったお話です。昨年(令和7年)は、7月4日ごろの記録的に早い梅雨明け、城田寺では突風被害がありました。異常気象の様子はそっくりです。雨乞いは西栗野地区と三田洞地区(百ヶ峰に登る)で見られ、近くは、



▲伝えられていた雨乞い踊り(岩野田郷土誌より)

大正13年と昭和17年に行われ、西栗野では120戸総出で、雨乞い道を登り、眉山山頂の権現様に祈願し、円墳前方で火を焚き踊りました。

鶴山砦(鶴ヶ峰砦・岩崎城)

1556年の斎藤道三父子の長良川の戦いで、道三が陣を構えたとされる場所が、岩崎の鶴山。かつては鶴山古墳(円墳)がありました。NHKの大河ドラマ「麒麟が来る」では、道三が大桑城を出て、鶴山に布陣すると、明智光秀も鶴山に駆け付けたとして描かれました。鶴山には1496年の城田寺の戦いでも、長井利安が陣取ったと言います。

現在、鶴山には登山道も遺跡もないとされています。鶴山古墳群が岐阜市の遺跡一覧にも記されていますが、滅失したとされます。



▲八代から見た鶴山(岩野田Pより)



○ 字名:古戦場